

2026 スーパーファイティング北信越空手道選手権大会 祝 辞

このたび、「2026 スーパーファイティング北信越空手道選手権大会」が盛大に開催されますことを、心よりお祝い申し上げます。

本大会の開催にあたり、ご尽力いただきました大会関係者、指導者の皆さま、そして日頃から選手を支えておられるご家族の皆さまに、心より敬意と感謝を申し上げます。

私にとって、日本空手道不動会は、単に空手道を学んだ場所ではありません。
私の人生を変えてくださった場所です。

大学一年生の時、不動会空手道と出会い、そして人生の師と呼べる師匠と出会いました。それまで周囲に心配や迷惑をかけることの多かった私が、厳しくも温かい師匠のもと、夢中になって稽古に励みました。

全日本空手道選手権大会で二度の優勝を経験し、大学卒業後は故郷富山へ戻り、砺波の地に道場を開設しました。

しかし、今振り返ってみれば、選手として勝ったこと以上に、その後、指導者として多くの道場生と出会えたことが、私の人生にとって大きな財産となりました。

指導を始めた頃の私は、強くすること、技を身につけさせること、そして時には厳しく接することが指導者の役割だと思っていました。

しかし、多くの道場生と共に汗を流し、一人ひとりと向き合う中で、私自身の考え方も変わっていきました。

人を育てるためには、厳しさだけではなく、愛情をもってその人を見つめること。

そして、その思いが相手に伝わるのが大切なのだと、道場生の皆さんから教えていただきました。

私は道場生を指導してきたつもりでしたが、振り返れば、私自身が道場生の皆さんによって、指導者として、そして一人の人間として育てていただいたのだと思っています。

そして、私の人生の大きな柱となっているのが、不動会で教わった、

「礼儀とは人のために自分を活かすこと」という教えです。

この言葉は、かつて道場に立っていた時だけのものではありません。

現在、私は指導の現場を離れ、市議会議員という新たな立場で活動しています。不動会で学んだ「人のために自分を活かす」という教えがあったからこそ、今度は地域のため、人の幸せのために力を尽くしたいと、新しい一步を踏み出すことができたのだと思っています。

しかし、長年立ち続けてきた道場を離れることに、寂しさがなかったと言え、それは嘘になります。

道場生の声、気迫、笑顔。共に汗を流した時間。

それらは今も、私の中に大切なものとして残っています。

だからこそ、私が指導の現場を離れた後も、この北信越の地で多くの館長、指導者の皆さんが道場を守り、子どもたちと向き合い、不働会空手道をつないでくださっていることに、心から感謝しています。

そして、この北信越空手道選手権大会を今日まで大切に受け継いでくださっていることを、本当にうれしく、頼もしく感じています。

私自身も、かつて師匠から多くのものを受け取った一人です。技だけではありません。

厳しさも、優しさも、人を育てることの責任も、そして、人としてどう生きるのかということも教えていただきました。

師から弟子へ。先輩から後輩へ。

誰かから受け取った大切なものを、自分の中だけに留めるのではなく、今度は自分が誰かのために伝え、そして次の人へ託していく。

そこに、武道を受け継いでいくことの尊さがあるのではないかと、今改めて感じています。

道場を離れた今だからこそ、そのことを以前にも増して感じるようになりました。

そして今、この北信越の地で道場に立ち続け、次の世代を育ててくださっている館長、指導者の皆さんに、改めて申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。

皆さんが今日も道場に立ち、子どもたちを迎え、共に汗を流してくださっているからこそ、不働会空手道は次の世代へとつながっています。

本大会は、2007年、ここ砺波の地で161名の選手を迎えて始まりました。

あの日から多くの皆様に支えていただきながら大会は成長し、2016年の第10回大会には484名の選手が集う大会となりました。

初開催から10年目まで大会会長を務めさせていただいた私にとって、この大会が今日まで受け継がれていることは、本当に感慨深いものがあります。

大会は、誰か一人の力で続いていくものではありません。

その時、その時に携わった方々が、それぞれの役割を果たし、次の人へ思いを託していく。その積み重ねがあって、今日の北信越空手道選手権大会があるのだと思います。

共に大会をつくってきた仲間の皆さん、そして、その思いを受け継ぎ、今この大会を支えてくださっている皆さんに、心から感謝申し上げます。

また、選手を一番近くで支えてこられた保護者、ご家族の皆さま。

日々の稽古への送り迎え、大会への参加、うれしい時も悔しい時も、お子さんと一緒になって歩んでこられたことと思います。

今日、選手たちがこの試合場に立つ姿は、決して選手一人の力だけでつくられたものではありません。

ご家族の支え、指導者の思い、共に稽古してきた仲間、そして全力で向き合ってくれる対戦相手。そのすべてがあって、今日という舞台があります。
どうか選手の皆さんには、その感謝を忘れないでほしいと思います。

そして、選手の皆さん。

強くなりたい。試合に勝ちたい。優勝したい。

その気持ちを大切に、今日は思い切り戦ってください。

しかし、空手道から得られるものは、勝敗だけではありません。

挑戦することは、決して簡単なことではありません。

思うような結果が出ないこともある。失敗することもある。悔しくて涙を流すこともあるでしょう。

でも、その経験は決して無駄にはなりません。失敗は、次へ進むためのヒントになります。

一歩踏み出した先には、新しい出会いがあり、新しい自分に出会えるチャンスがあります。

だからこそ、変化を恐れず、挑戦する勇気を持ってください。

そして、もう一つ。

私が皆さんに、どうしても伝えておきたいことがあります。

皆さんは、一人ではありません。

道場には、一緒に汗を流す仲間がいます。

皆さんの成長を願い、時には厳しく、時には温かく向き合ってくれる指導者がいます。

そして、誰よりも皆さんの幸せを願っている家族がいます。

空手道のことだけではありません。

学校のこと、仕事のこと、友人関係のこと。これからの人生の中で、悩んだり、悲しんだり、悔しかったり、苦しくなったりすることもあるでしょう。

そんな時は、どうか一人で抱え込まないでください。家族でも、仲間でも、そして道場の館長でもいい。

皆さんを大切に思っている人に、話してください。

私は長い指導生活の中で、道場とは、空手の技を磨き、強くなるためだけの場所ではないことを学びました。

人と出会い、人とつながり、人を思いやり、そして互いに支え合いながら成長していく場所。

それもまた、道場なのだと思います。

不働会の道場訓には、「空手道を通じて 生涯の修行となし 人の道を全うする事」とあります。空手道の修行は、大会で勝つことだけで終わるものではありません。

やがて道場を離れる日が来ても、大人になっても、それぞれ違う道を歩むようになって、不働会で学んだことは、きっと人生のどこかで皆さんを支えてくれます。

私自身がそうでした。

師匠から受け取ったものを胸に道場を開き、道場生と出会い、仲間と大会をつくり、そして今は、そこで学んだことを私の心のど真ん中に置き地域のために活動しています。
立つ場所は変わっても、歩んでいる「道」はつながっている。私はそう思っています。

そして、今日まで誰かに支えてもらった皆さんが、いつの日か、今度は誰かを支える人になってほしい。師から弟子へ。先輩から後輩へ。
そして、皆さんから、まだ見ぬ次の誰かへ。自分が受け取ったものを、今度は誰かのために活かしていく。
それこそが、私が不動会から教わった、「礼儀とは人のために自分を活かすこと」なのだと思います。

六段錬士師範となった今も、市議会議員となった今も、私自身、まだこの教えを実践する道の途中です。
選手の皆さんも、それぞれの人生の中で、自分なりの「人のために自分を活かす道」を見つけてくれることを願っています。
さあ、自分を信じて、一歩踏み出してください。勝っても、負けても、今日ここで挑戦したことを誇りにしてください。そして、忘れないでください。
「君は、一人じゃない」

今日という挑戦が、皆さんの新しい未来につながることを心から願っています。
結びに、本大会のご盛会と、日本空手道不動会のさらなる発展、そして選手、保護者、指導者並びに関係者すべての皆さまのご健勝とご活躍を心より祈念申し上げ、祝辞といたします。

2026 年 10 月 4 日
日本空手道不動会 会長補佐
2026SF 北信越空手道選手権大会 顧問
砺波市議会議員 原野 誠